

花茎処理と土壌水分管理がハイブリッド・スターチスの開花に及ぼす影響

馬場重博 (長崎県総合農林試験場)

Sigehiro BABA : Effect of Training and Soil Moisture Control on Flowering of *Limonium* Hybrid

ハイブリッド・スターチスはシュクコンカスミソウとともに添え花として広く利用されているが、比較的新しい品目であり、栽培技術で不明な点が多い。本試験では高温期の花茎処理、土壌水分管理の方法が採花に及ぼす影響を検討した。

1. 材料および方法

ハイブリッド・スターチス 'ブルーファンタジア 100' を 1996 年 6 月 16 日に定植した。土壌水分管理については、定植して活着後から 9 月の間、pF1.5 および 2.0 になった時点でそれぞれ灌水する 2 水準を設定した。花茎処理については、定植してから 8 月までの間、抽台した花茎は全て切除する区、弱小茎 (花茎径 3mm 以下) は切除してそれ以外の花茎は 3 節を残して摘心する区と弱小茎は切除してそれ以外の抽台した花茎は採花する区の 3 水準を設定し、土壌水分管理と花茎処理を組み合わせ 6 区を設定した。1 区 2 株の 3 反復とした。栽培施設はガラス温室を使用した。栽植密度は幅 90cm、深さ 30cm のコンクリートベンチに、2 条千鳥植えとした。株間、および条間は 40cm とした。コンクリートベンチには排水溝がある。各区 2 株について採花調査を行い、採花日、切り花長、切り花重、花茎径を調査した。

2. 結果および考察

高温期の土壌水分管理、花茎処理の違いによって翌年 6 月までの総採花本数に差はなかったが、高温期に全ての花茎を切除した区では採花時期が 10 月と 4 月と 6 月に集中した (第 1 表)。土壌水分管理が pF1.5 の管理で全

ての花茎を切除した区および弱小茎以外は採花した区と pF2.0 の管理で弱小茎以外は採花した区は、他の区よりボリュームのある切り花重 50g 以上の採花本数が多かった (第 1 表)。pF2.0 で全ての花茎を切除した区が少ないのは、花茎を切除することにより腋芽が多く出てくるが、pF2.0 の土壌水分管理では水分が不足し、生育が劣ると考えられる。切り花長は弱小茎のみ切除してそれ以外の花茎は採花した区が他の花茎処理区より長かった。しかしながら切り花重は全ての花茎を切除した区との間に差はなかった。3 節残して摘心した区は他の花茎処理区より切り花品質が劣った。これは残した 3 節より側枝が発生し、新しい葉が出ないことから光合成ができずに養分の貯蔵ができないと考えられ、それが秋以降の採花に影響していると考えられる。

以上のことから、高温期 (7 月～8 月) に採花せずに株疲れを防ぐ目的で花茎を切除したものと弱小茎以外を採花したものと間に総採花本数の差は認められなかったが、高温期に全花茎を切除したものは需要が多い 10 月と 4 月に採花時期が集中し、目的を持った出荷のためにはこの花茎処理が有効と思われる。このときの土壌水分管理は、pF2.0 の管理では切り花品質が劣るので pF 値で 1.5 の管理がよいと考えられる。また、高温期に採花しても生育が悪くなることはなく、大きな採花ピークもないことから労力分散の面からはこの花茎処理がよい。この時の土壌水分管理は pF1.5～2.0 でよいと考えられる。

第 1 表 株当採花本数および切り花品質 (1996年8月～'97年6月)

区 (処理A)	pF	株管理 (処理B)	採花本数	切り花重	切り花長	切り花重	花茎径
			(本)	50g以上本数 (本)	(cm)	(g)	(mm)
①	1.5	全抽台茎切除	8.4	5.1	101	64.4	4.6
②	"	3節残し摘心	6.5	3.1	100	54.8	4.2
③	"	弱小茎切除	6.5	4.4	104	68.4	4.9
④	2.0	全抽台茎切除	6.3	3.1	99	58.4	4.6
⑤	"	3節残し摘心	6.0	3.5	98	56.8	4.3
⑥	"	弱小茎切除	6.5	5.0	105	67.7	4.9
F検定処理A			N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.
" 処理B			N.S.	*a)	**b)	*	**
" 処理A×B			N.S.	*	N.S.	N.S.	N.S.
LSD		処理B	—	1.0	4.8	9.2	0.5
		処理区	—	1.5	—	—	—

注) a) * : 5%水準で有意差あり b) ** : 1%水準で有意差あり